

開催地名	沖縄県 宜野湾市
開催日時	令和7年1月25日(土)10:00~11:30
開催場所	男女共同参画支援センターめぶき
語り部	石川 恵美子(東京都町田市)
参加者	宜野湾市民28名
開催経緯	災害経験者の生の声を聞くことにより、災害に備えた意識啓発を高めてもらい、自助の重要性を市民へ伝え認識してもらう。また、自主防災組織を中心に宜野湾市における災害対応力の強化を図り、共助で自分の住む街を守る意識づくりを持ってもらう目的に開催。
内容	<p><b>■自己紹介</b>  学生時代、新宿区の漫画喫茶でアルバイト勤務中に東日本大震災を経験した。当時、帰宅困難となった駅前滞在者の受け入れ対応に携わったことが契機となり、防災に関する仕事に関わりたいと考えるようになった。  その後、町田市役所に入庁し、2016年には熊本地震でのボランティア活動を経験。2017年度から2022年度にかけて町田市防災課に所属し、防災対策の業務に従事した。2018年には、西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市への派遣業務を担当し、また新規採用研修の講師としての経験も積んだ。  2023年度からは、総務省消防庁の「防災意識向上プロジェクト」において語り部として委託を受け、兼業申請のもと、防災意識向上のための活動を継続している。</p> <p><b>■過去に実際にあった災害</b>  日本ではこれまでに多くの地震や洪水などの災害が発生してきた。それぞれの地域において適切な防災対策を講じることが重要であるが、地域ごとの特性や環境に応じて、必要な備えは異なってくる。  本講演では、過去に発生した地震やその他の災害において、実際にどのような備えが必要だったのかを振り返り、それぞれの地域の特徴と課題を確認する。これを通じて、自身の住む地域でどのような備えが求められるのかを考えるきっかけとし、実際の防災対策に活かしていくことを目的とする。</p> <p><b>■東日本大震災での被災について</b>  語り部の石川さんは、学生時代にアルバイト勤務していた漫画喫茶で東日本大震災に被災した。大きな揺れを体験した後、電車が停止し、多くの帰宅困難者が駅周辺に集まり始めた。店舗では受け入れを行っていたが、すぐに満席となり、床に座って過ごす市民も多く見られた。  石川さん自身は休むことなく働き続けていたが、夜中になって次の勤務者が徒歩で職場まで来たため、深夜になってようやく帰宅することができた。その後、岩手県での震災の被害状況を知り、大規模災害が各地で発生していることを実感したという。  振り返ると、当時の対応には多くの反省点があった。例えば、建物の安全確認を十分に行わないまま営業を続けていたことや、入口に張り紙をして状況を知らせるなどの工夫ができていなかったことが挙げられる。これらの経験を通じて、災害時の対応においては事前の備えや迅速な判断が重要であることを学んだ。</p> <p><b>■岡山県での被災地での経験について</b>  初めて被災地への派遣業務に従事した際、現地の被災者との直接的な接触は原則として禁止されていた。そのため、必要な支援を適切に届けるための情報収集が難しく、関係機関との連携が十分に取れない状況が生じていた。結果として、人材のプッシュ型投入が先行先立ってしまった結果避難所では支援側の人余りが生じる一方で廃棄物の仮置き場には多くの未処理の廃棄物が積まれたままになっているなど、支援職員の適所配置がなされていないと感じた。語り部を含む東京都の各市からの職員は現地へ到着するまでこの現状を知らされていなかったため、派遣元都道府県と現地連絡職員の間で情報連携に課題を感じた。  この経験から、被災地における支援活動では、関係機関同士の円滑な連絡体制が不可欠であることを痛感した。今後の課題として、災害発生時の情報共有の在り方や、支援をより効果的に行うための調整方法について議論を重ね、具体的な対応策を構築していくことが求められ</p>

る。

■ まとめ

今後発生する可能性のある災害に備えるためには、日々の防災意識を高め、適切な準備を行うことが重要である。防災対策は地域によって異なり、それぞれの環境に応じた準備が求められるため、一人ひとりが自身の住む地域のリスクを理解し、それに応じた対策を講じることが必要となる。

また、防災は個人の備えだけでなく、地域住民同士の協力が不可欠である。災害時に円滑な対応を行うためには、日頃からのコミュニケーションを大切にし、地域全体で支え合う意識を持つことが重要である。講演の最後には、こうした防災への意識と地域のつながりの大切さを再認識し、それぞれが今できる準備を進めていくことが求められると話し、まとめとした。



開催地より

性別、年齢、職業問わず多くの地域住民の方にご参加いただくことができた。講演会終盤には、参加者から講師の石川さまへ積極的な質問が行われ、聞くだけでなく、防災に対しての活発な意見交換も行われていた。